

自立活動の確かな実践と教師の専門性向上を目指した取組 I

—実態把握から指導目標・内容の設定プロセスに焦点をあてて—

企画者	田添 敦孝	(東京都立小平特別支援学校武蔵分教室)
	古川 勝也	(西九州大学子ども学部)
司会者	一木 薫	(福岡教育大学特別支援教育講座)
話題提供者	渡辺 政治	(さいたま市立さくら草特別支援学校)
	藤原 啓子	(奈良県立奈良養護学校)
	佐藤 貴宣	(東京都立久我山青光学園)
指定討論者	分藤 賢之	(文部科学省)

KEY WORDS: 自立活動, 実態把握, 指導目標・内容の設定

【企画趣旨】

自立活動の指導は、特別支援学校の教育課程にある特別な指導領域であり、特別支援学校の教員の専門性が問われる。しかし、自立活動の指導が難しいという声を聞くことがある。その理由の一つとして、自立活動は、各教科等のように指導目標や内容が学年毎に記されていないことが考えられる。

自立活動の指導は、幼児児童生徒一人一人の実態に合わせて指導目標や内容を設定するため、教員は目の前にいる子供と向き合い、ある一定のプロセスを踏んで、実態把握を行い、指導目標・内容を設定することになる。安藤(2001)は、ある児童の実態把握を行うことや自立活動の指導目標・内容を設定することは、一連の作業過程で解を得るとみなせるが、解の唯一性に着目すると、設定された目標の妥当性を検証することは困難であり、唯一の絶対は存在しない事態での解の抽出であると述べている。中央教育審議会答申(2016)では、自立活動について「実態把握から指導目標・内容の設定までの各過程をつなぐ要点を分かりやすく記述することが必要である。その際、指導目標・内容を設定する際の各教科等と自立活動における手順の違いや両者の関連を分かりやすく示す必要がある。」と記されている。このようなことから、自立活動の指導における実態把握から指導目標・内容の設定に関するプロセスに悩む教員が多いことが推測される。

授業改善や教師の専門性に関する課題改善の方法としては、各学校において授業研究や校内研修会等を通じて校内でのOJTで取り組む方法がある。またその一方で、職場を離れて、Off-JTのスタイルで同じような課題意識を持った教職員が集まってインフォーマルな研究会等を立ち上げ、自己の専門性の向上を目指して、研究・研修活動に取り組

む方法がある。全国を見ると、Off-JTスタイルのインフォーマルな自立活動に関する研究会が散見する。

そこで、本シンポジウムでは、全国各地で活動しているOff-JTスタイルのインフォーマルな研究会の取組に着目し、自立活動の指導における実態把握及び指導目標・内容の設定プロセスの在り方や教師の専門性について討論する。

【話題提供】

教員が主体となって自立活動に関する研究・研修に取り組む、全国各地のOff-JTスタイルのインフォーマルな研究会の活動概要を紹介する。さらに、自立活動の指導実践上の課題のうち、実態把握から指導目標・内容の設定に関する教師の専門性向上を目指した取組について、事例を交えながら報告する。(渡辺政治・藤原啓子・佐藤貴宣)

【指定討論】

自立活動の専門性を培うことは喫緊の課題で現職者に対する研修確保が重要である。しかし、毎年の異動により人事の流動化が顕著な学校では、複数年にわたる研修計画が立ちにくく、研修成果の積み上げが困難な状況もある。そのような中、全国ではインフォーマルな自立活動の研修機会が設定され、多くの教師が地域を越えて参加する姿が見られている。このような研究会が果たす役割や今後の取組への期待など、学校現場における自立活動の指導の現状と課題を踏まえ、特別支援学校学習指導要領の改訂を担う立場から、本研究の成果及び課題について言及する。

(分藤 賢之)

(TAZOE Nobuyuki, FURUKAWA Katsuya,
ICHIKI Kaoru, WATANABE Masaharu,
FUJIWARA Keiko, SATOU Takanori
BUNDOU Noriyuki)